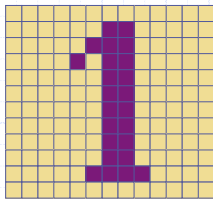


## パターンとシンボル

### パターン



### シンボル

- 0 青
- 1 赤
- 2 緑
- 3 黄

- 均質な要素の配列
- 各要素値の並びが重要
- 不均質均質な要素の配列
- 各要素が独立に意味を持つ

## 画像の処理と認識・理解

### ◆画像処理・画像変換 (パターン→パターン)

狭義の画像処理

- 画質改善
- 画像符号化・圧縮
- メディア変換 (不可視情報の可視化)

### ◆画像認識・画像理解 (パターン→シンボル)

- 2次元パターン認識
- 3次元画像計測・認識

### ◆画像生成 (シンボル→パターン)

- コンピュータグラフィックス

## 二値画像処理(教科書5章)

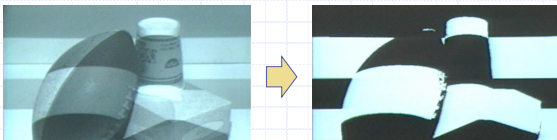
### ◆画像を「白」と「黒」だけで扱う処理

- 図形の処理として、もっとも基本的



### ◆二値化とは

- 画像を白と黒の領域に分ける処理
- どのぐらいの明るさにするか? が問題



## 二値化と閾値決定

### ◆図と地の割合が予測できる場合(文書等)

- P-タイル法  
ヒストグラムを一方から加算した結果がちょうどpになる値を利用

### ◆ヒストグラムがはっきりとした双峰性

- ピーク間の最小値

### ◆その他の場合

- 判別分析法

## 判別分析法

### ◆特徴量

- 全画素の明度値の平均  $\mu$ , 分散  $\sigma^2$
- 閾値以上・以下の分布をクラス1,2に分類
- 各クラス  $x$  の割合  $w_x$ , 平均  $\mu_x$ , 分散  $\sigma_x^2$

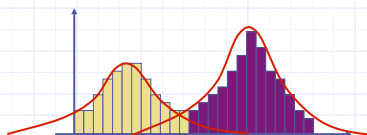
$$\text{クラス内分散 } \sigma_w^2 = w_1\sigma_1^2 + w_2\sigma_2^2$$

$$\text{クラス間分散 } \sigma_B^2 = w_1(\mu_1 - \mu)^2 + w_2(\mu_2 - \mu)^2 = w_1w_2(\mu_1 - \mu_2)^2$$

$$\sigma^2 = \sigma_w^2 + \sigma_B^2$$

### ◆閾値の決定

- クラス間の分離度  $\sigma_B^2 / \sigma^2$  を最大にする閾値



## ラベリング



重複リスト

1	2
·	·
·	·
·	·

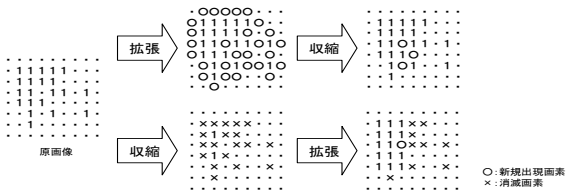
### [1/パス]

- 上または左の画素と同じラベルを付与
- 左上の画素が異なるラベルを持つ場合
  - 重複リストに追加
- 上も左も、0画素である場合
  - 新しいラベル番号を付与

### [2/パス]

重複リストを元に、ラベルを更新

## 膨張・収縮



- ◆膨張・収縮 - 穴を埋める効果
- ◆収縮・膨張 - 孤立点を除去する効果

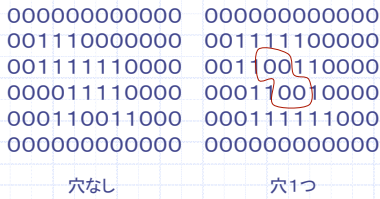
## 距離変換・スケルトン



- ◆距離変換 - 何度目の収縮処理で0画素になるか
- ◆スケルトン - 距離変換画像の極大点 (近傍画素値が中央画素の値以下)
- ◆元の画像を復元可能

## 二次元二値画像のトポロジー

- ◆連結成分の穴の数に対応



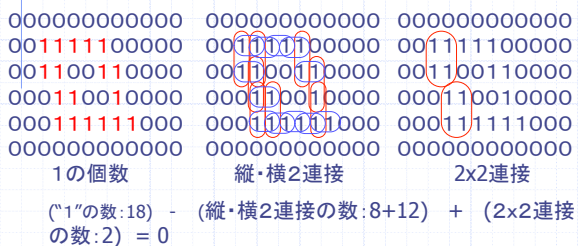
## オイラー数

- ◆(連結成分の個数) - (穴の個数)



## オイラー数の計算方法

- ◆4近傍の場合



## オイラー数の原理(1)

- ◆位相が不変な操作

	000000	000000	000000	000000	000000
	011100	011100	011100	011100	011110
	001000	001110	001100	001100	001110
	000000	000000	000000	001100	001100
画素数	+1	+1	+1	+1	+1
縦・横接続	+1	+1	+2	+3	+4
2x2接続	±0	±0	+1	+2	+3
オイラー数	±0	±0	±0	±0	±0

000000  
011110  
001010  
001100

注意: 左の0は穴ではない  
図("1")が4近傍の場合、地("0")は8近傍で考える

## オイラー数の原理(2)

### ◆位相が変化する操作

	000000	000000	000000	000000	000000
	000000	111010	000110	011110	011110
	001000	000010	001110	001110	001110
	000000	000010	001100	001110	000100
画素数	+1	+1	+1	+1	+1
縦・横接続	+0	+2	+4	+4	+4
2x2接続	±0	±0	+2	+4	+2
オイラー数	+1	-1	-1	+1	-1
操作	出現	接続	接続	穴埋め	接続

## 8近傍のオイラー数

### ◆ちょっと複雑

画素数 V	縦・横 2接続 E	斜め接続 D	2x2領域中, 3画素 T	2x2接続 F

オイラー数 = V - E - D + T - F

4 - 4 - 2 + 4 - 1 = 1

3 - 0 - 2 + 0 - 0 = 1

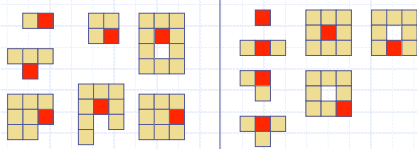
8 - 8 - 4 + 4 - 0 = 0

6 - 4 - 4 + 2 - 0 = 0

## 消去可能性

### ◆消去可能画素とは

- 画像全体の連結性が変化する画素
- 位相構造を変化させずに図形を変換



消去可能 | 消去不可能

4近傍の場合

## 消去可能性の計算

### ◆以下の式が1のとき消去可能

X <sub>4</sub>	X <sub>3</sub>	X <sub>2</sub>
X <sub>5</sub>	X <sub>0</sub>	X <sub>1</sub>
X <sub>6</sub>	X <sub>7</sub>	X <sub>8</sub>

### ◆4近傍の場合

$$X_1 + X_3 + X_5 + X_7 - X_1 X_2 X_3 - X_3 X_4 X_5 - X_5 X_6 X_7 - X_7 X_8 X_1$$

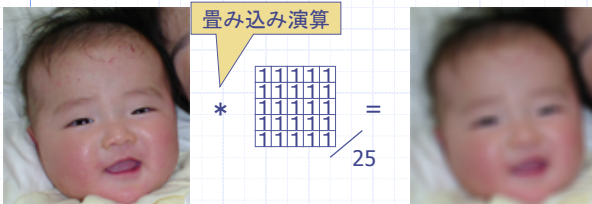
### ◆8近傍の場合

$$X_1 + X_3 + X_5 + X_7 - X_1 X_2 X_3 - X_3 X_4 X_5 - X_5 X_6 X_7 - X_7 X_8 X_1$$

### ◆8近傍: 4近傍の図と地を入れ替えて計算

## フィルタリング

### ◆畳み込み演算フィルタ



$$g(x, y) = \iint k(u, v) \cdot f(x-u, y-v) du dv = k * f$$

## 畳み込みフィルタの種類

1 1 1
1 1 1
1 1 1

平滑化

0 0 0
-1 1 0
0 0 0

微分  
(距離1)

-1 0 1
-2 0 2
-1 0 1

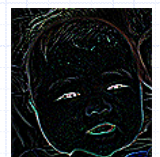
ソーベル

0 1 0
1 -4 1
0 1 0

ラプラシアン



(10倍に明るく)



(3倍に明るく)

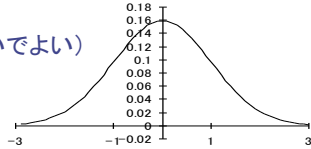
## フィルタの数学的定義

### ◆ ガウシアンオペレータ

- 平滑化オペレータ (数学的意味は後述)
- 畳み込みカーネル関数

$$k(x, y) = \frac{1}{2\pi\sigma^2} e^{-\frac{x^2+y^2}{2\sigma^2}}$$

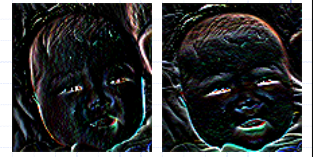
- 無限に続く関数 (実際には3σぐらいでよい)
- σは、オペレータの広がり (平滑化の度合い)



## 微分フィルタ

X微分

Y微分



### ◆ 2次元微分フィルタ

$$\nabla f(x, y) = \left[ \frac{\partial f(x, y)}{\partial x}, \frac{\partial f(x, y)}{\partial y} \right]$$

- ベクトル値を持つフィルタ

### ◆ エッジ強度

$$Df(x, y) = \sqrt{\left( \frac{\partial f(x, y)}{\partial x} \right)^2 + \left( \frac{\partial f(x, y)}{\partial y} \right)^2}$$

### ◆ ラプラシアン

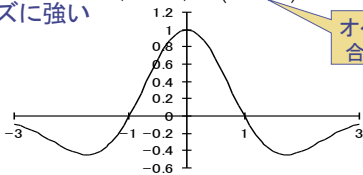
$$\nabla^2 f(x, y) = \frac{\partial^2 f(x, y)}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 f(x, y)}{\partial y^2}$$

## LoG フィルタ

### ◆ 平滑化と微分フィルタを組み合わせたもの

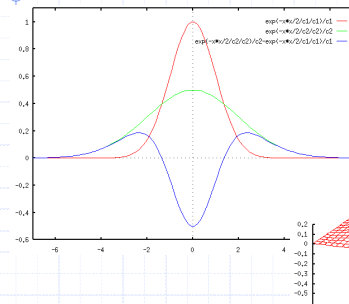
$$LoG(f) = \nabla^2 \cdot (G * f) = (\nabla^2 \cdot G) * f$$

- ノイズに強い



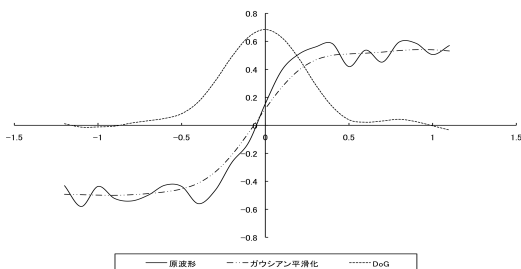
LoG オペレータ

## DoG (Difference of Gaussian)



<http://fourier.eng.hmc.edu/e161/lectures/gradient/node11.html>

## LoG フィルタの効果



- ◆ ノイズに対して強い微分が可能 (感応する空間周波数帯を選択可能)